

學士會會報

GAKUSHIKAI KAIHO July No.895 2012-IV

●特集 「地中海」



震災復興と地域産業再生への挑戦

—東北大学地域イノベーション・リサーチセンターの活動—



東北の創造的復興を目指して

二〇一一年三月一日午後二時四六分に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした。死者・行方不明者合わせて約一万九〇〇〇人。被災地は北は青森県から南は千葉県に至る五〇〇kmを超す範囲に及び、地震と津波による被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所の事故も発生し、我が国の歴史上でも稀にみる大災害へと発展した。発生から一年以上が過ぎ、復興庁が設立され、復興予算の大枠が決定されたとはいえ、被災地ではようやく復旧から本格的な復興が始まろうとしている段階にとどまってい

る。

私が研究科長を務める東北大学大学院経済学研究科では、既に研究科内に設立されていた地域イノベーション・リサーチセンターの内部に震災後ただちに「震災復興研究センター」を設置し、調査研究チームを組織し、東北地方を中心とする地域経済・産業の震災からの復興に関する研究に着手した。センター長を務める増田聡教授のもとに、研究科構成員のおよそ三分の一が参加するとともに、周辺の他大学等の研究者にも参加を呼びかけた結果、合わせて一〇大学、官公庁、経済団体、民間企業からの約六〇名から成る共同研究チーム

大 おお
滝 たき
精 せい
一 いち

が編成された。地域経済・産業の復興といってもカバ―すべき範囲は幅広い分野に及ぶが、復興に重点を置き、参加した研究者の関心を考慮したうえで、マクロ経済把握、地域社会、産業(食産業、観光、ものづく、情報通信、流通)、人材ビジネスインフラ、金融ビジネスインフラの五つの分科会が組織され、早くも五月からは本格的な調査研究が開始された。震災から一年を経過した二〇一二年三月には、最初の研究成果として『東日本大震災からの地域経済復興への提言』および『地域発イノベーション—東北からの挑戦—』(ともに河北新報出版センター)の二冊を上梓したところである。

地域イノベーション研究センター(RIRC)の活動

現在地域産業復興の研究科内の拠点となっているRIRCは、二〇〇八年に有志の教員によって設立された。その目的は、研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことよって、東北をはじめとする地域のイノベーション能力の向上を図り、地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、実施および調整を行うことにある。併せて当センターは、本学および地域の企業、自治体、非営利組織等の実務家たちと交流する場を提供することに

よって、地域の現実について強い関心と理解をもち、地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材の育成を目指している。

これらの目的の達成に向けて、震災発生の前からセンターは活発な活動を展開してきた。そのいくつかを以下に紹介しよう。

①プロデューサー塾の開催

イノベーションの担い手を「プロデューサー」と位置づけ、各分野で活躍するプロデューサー(企業家、行政やNPOのリーダー、イベント・クリエイターなど)を招き、若い学生との交流を促進する。

②イノベーション・カレッジの開催

定期的に東北各県を巡回しながら、研究科教員による地域イノベーション振興に関わる経営戦略、マーケティング、人材育成とリーダーシップ、地域企業経営、デザイン思考等の公開講義を開き、東北各地のリーダーとの交流を深め、さらなるイノベーションを刺激する。

③セミナー・シンポジウム等の定期的開催

「大学発ベンチャー・韓日比較研究」「ものづくりだけで生き残れるか?」「製造業のサービス化」「デザイン発想からの新しい経営」など、地域経済のイノベーションに重要なテーマを選び、新たな発想や突破口の

探索を促すセミナー、シンポジウム、フォーラムを開催する。

④農商工連携プロデューサー育成塾の開催

農林水産省や経済産業省の支援を受け、農業と商業・工業を連携させて新たな付加価値を生み出す担い手である「農商工連携プロデューサー」を実践型研修プログラムの開発に基づき、地域の先進企業や経済団体とのコンソーシアムのもとで、毎年約二〇名ずつ輩出する。

⑤地域中小企業景況調査の実施

会員約一〇〇〇社を擁する宮城県中小企業家同友会が会員企業を対象に行うアンケート調査に協力し、会員企業の現在の経営状況および三ヶ月後の経営状況の予測について調査するとともに、毎回特別テーマを設

定し、地域中小企業の取り組みの現状と課題についても報告する。

震災復興と地域産業再生への取り組み

震災発生後に東北大学は、東日本大震災の被災地域における総合大学として、被災からの復興・地域再生を先導する研究・教育・社会貢献等を戦略的かつ組織的に取り組み、その成果を発信し実践することを目的に、「災害復興新生研究機構」を創設した。この部局横断的組織では、災害科学国際研究推進、地域医療再構築、環境エネルギー、情報通信再構築、東北マリンサイエンス、地域産業復興支援、復興産学連携推進の七つのプロジェクトがトップダウン型で展開されており、経済学研究科では、このうちの地域産業復興支援

家族進化論

山極寿一

家族とはなにか。その根源を見つめ続ける蓋長類研究の第一人者が、壮大なスケールで問いなおす(山極進化論)の到達点。 3360円

岩波映画の1億フレーム

記録映画アーカイブ1

丹羽美之・吉見俊哉編

戦後日本の科学技術・社会・文化を映し続けた作品群の全貌を、貴重な映像資料と最新の研究成果から読み解く。DVD1枚付。 7770円

映画と国民国家

1930年代松竹メロドラマ映画

御園生涼子

『その夜の妻』から『愛染かつら』まで。メロドラマ映画に潜む政治イデオロギーを抉り出す。 5250円

伝統都市・江戸

吉田伸之

「伝統都市」の比較典型的分析と、社会的諸集団の実態分析から、江戸の社会を構造的に把握する。近世都市史研究の集大成。 6300円

ワークショップを学習論の視点から捉え直し、新たなまなびの世界を探究するシリーズ

ワークショップと学び

(全3巻) 完結!

菊宿俊文・佐伯 胖・高木 光太郎編 各巻2940円

四六判・平均256頁
■内容見本送呈

- ①まなびを学ぶ
- ②場づくりとしてのまなび
- ③まなびほぐしのデザイン

東京大学出版会

〒113-8654 文京区本郷 7-3-1 東大構内
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6968
http://www.utp.or.jp/ [価格税込]

プロジェクトをRIRCを中心に担っている。またこの他にも、全学の研究室レベルでは、およそ一八〇の復興アクションが展開されている。

東北の地域産業は、既に震災前から徐々に衰退の傾向を見せていた。進展する地域経済の衰退は、雇用機会の減少と域外への人材流出を加速させ、このことが地域企業の経営者のマインドを萎縮させ、さらに地域経済の衰退を助長するという「負のスパイラル」が震災の前から既に進んでいたものであり、今回の震災の発生は、それに拍車をかける形となっている。したがって、地域におけるイノベーションの不足と革新的プロデューサーの不足という、震災前から存在していた課題に正面から取り組まず、震災前の状態に戻す復旧を果たすだけでは、課題の本質的な解決につながらないことを改めて肝に銘じておく必要がある。

このような理由から、私たちが主として担う地域産業復興支援プロジェクトは、(一)継続的な地域産業復興調査研究による課題の抽出・解決策の立案(地域産業復興調査研究)と、(二)新たな雇用の機会を創出するためのさまざまなイノベーション(新しい価値創出の実践)を誘発する革新的なプロデューサーの育成(地域産業復興プロデューサー育成)の二つの部分から構成されており、文部科学省特別予算(復興特別会計)の支

援のもとで、二〇一二年度より五年間にわたり展開することになっている。

まず、前者の地域産業復興調査研究においては、既に震災直後から開始された調査研究を継続発展させることにより、中長期的な東北地域の産業復興に向けた東北地域全体の新たな産業配置や農林水産業などの革新的な産業政策の構想など、さまざまな学問的視点からの知見を総動員して地域産業復興の進捗状況や課題を調査分析し、被災地から情報発信していくことにしている。また、東北活性化研究センターと共同で、地域イノベーションの実態を解明するとともに、地域における事業支援の現状と今後のあり方にもメスをいれ、より迅速かつ効果的な復興支援につなげていくことも目指している。

二つ目のプロジェクトの大きな柱である人材育成については、その役割を「地域イノベーションプロデューサー塾」が担っていくことになる。この塾は、地域企業(特に中小企業)の経営者と管理者を対象として、地域ならではのイノベーションを創出し、新たな雇用機会を創出し産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成することを目的としている。基礎講座や特別講座の開講だけでなく、それらの講座や研修をもとに、少人数のゼミ形式で、ビジネスプランづくりを体系的に指導する実践ゼミや震災復興とも結びつけた連携講座を開講し、夜間や土曜日を使い、社会人が参加しやすい環境にも配慮している。さらに、産学官による支援体制の充実により、ビジネスプランの開発が迅速に事業化プロジェクトに結びつく工夫も行っている。二〇一三年度からの本格的開塾を目指してきたが、二〇一二年度から二名の塾生を募集し、この五月より試行的に開講することになっている。

またこのプロデューサー塾とは別に、RIRCでは、東北ニュービジネス協議会や経済同友会などと協力し、「東北未来創造イニシアティブ」を共同開催することになっている。これは岩手・宮城・福島 of 被災地の五つの拠点(釜石/北上、気仙沼、石巻、仙台、福島)で地域を支える団体や組織と協力し合い、人材育成・事業創造のメンタリング、企業・行政・市民セクターおよび大学の資源とネットワークを総動員するクロスセクターの人材育成プログラムであり、RIRCはその結節点としての役割をはたすことになっている。

被災地の大学としての責務

震災からの復興・再生は、一〇年あるいはそれ以上の歳月を要するものとなる。被災地に身を置く大学のひとつとして、私たちは被災地の人々とともに、そ

の復興・再生の過程を見つめ、記録として後世に残し、そして被災者の方々に勇気づけることができる提言を行っていく責任を負っている。今後継続して粘り強く復興・再生の過程を追いかけ、被災地にある大学でなければできない研究と貢献をさらに展開していく所存である。

微力ではあっても、東北地域の復興と再生に向けて、しっかりとした展望を与えることのできる成果を、今後とも発信し続けていきたいと願っている。

(東北大学大学院経済学研究科長、教授・東北大・経修・経昭50)

入会の申し込みは、会員課まで

入会の申し込みは、学生会事務局会員課までお電話ください。

電話03-3292-5933

学生会ホームページでも受付中です。

<http://www.gakushikai.or.jp>